

**参加会議・コース名称**

Arctic Frontiers 2019

**■ 派遣中の活動と成果**

北極海航路や北極域における資源開発、観光などの動向や見通し、また海洋産業に伴う環境変化やインフラ整備などの課題や最新の知見を得ること、持続可能な北極海域の発展への貢献を検討するため、Arctic Frontiers 2019へ参加した。Arctic Frontiersは政策、ビジネス、科学の各分野において持続可能な成長を議論する国際会議であり、13回目となる今回は“Smart Arctic”をテーマとして開催された。

初日は北極圏の政策に関わる政府関係者らの間で政策や文化、北極圏の経済発展における国際協力などについて議論されていた。

Arctic Sea Waysのセッションにおいては、観光や建設関連の企業の代表や研究者らが経済・ビジネスの視点で議論された。そのなかでは、漁業エリアの北部への拡大によって引き起こされる北極域の環境変化や事故の発生、また、北極圏における観光クルーズのビジネスとしての在り方について議題にあがっていた。観光クルーズを企画するノルウェーのHurtigrutenでは、LNGに加えてバイオガスやバッテリーをエネルギーとして利用したクルーズ船の運航や使い捨てプラスチック製品の撤廃など、“持続可能性”を強調することで、北極域での観光ビジネスの拡大を進めているようであった。これに対して司会の方は北極圏のクルーズツアーなどの観光業の拡大については否定的な考えを持っているようであったが、観光事業の発展により小さな街では経済発展が進み、恩恵を受けている側面もある、という北極圏出身の参加者からのコメントは印象的であった。

シンガポールのKeppel Offshore & Marineでは、資源掘削などのリグ以外に観光や船舶の事故発生時の救助拠点としてのフロート施設の建設を計画しているということであった。このようにエネルギー資源開発以外の分野でも北極圏における施設建設やそれに伴う物資輸送は増加していく可能性があり、北極海航路の利用の拡大が見込まれる。加えて、ロシアでは13隻の砕氷船新造の計画が立てられているということで、政策として今後も積極的に資源開発を実施し、資源や物資輸送に北極海航路の利用を進めていくということであった。昨年の北極圏におけるロシアの貨物輸送量は2,000万トン近くに及び、今後数年でさらなる増加が見積もられており、北極圏における海上輸送を利用した経済の発展やビジネス拡大が見込まれる。

一方で、インフラ整備の観点では、新たに鉄道を敷設することによる街の発展や陸上輸送、観光業の拡大についても話題にあがっていた。インフラ整備についてはロシアにおいても必要であるとの考えを示していた。鉄道敷設については実現の可能性については定かではないが、今後ビジネスとしての発展可能性は十分考えられる内容であった。



開会前夜のレセプションの様子  
スバルバル周辺の氷の減少に関する発表



初日のセッションの様子

今回このような機会を与えていただいた ArCS 若手研究者海外派遣支援事業の取り組みに感謝いたします。

#### ■ 派遣支援期間中の研究発表・受賞・アウトリーチ活動

〔派遣中に会議等での研究発表・受賞・アウトリーチ活動があった場合、概要を記述してください〕  
なし

※図表・写真等を含めて構いません。最大2ページで作成してください。